

2017 年 IEEE 関西支部 総会資料

2017 年 2 月 22 日
IEEE 関西支部

総会資料目次

I.	2017年関西支部役員・理事	1
II.	2017年 KANSAI CHAPTER 役員	5
III.	2017年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	7
IV.	2016年 活動報告 および 2017年活動計画	9
V.	関西支部会員数	40
VI.	2016年 会計報告	43
VII.	2017年 予算(案)	45
VIII.	受賞者	47
IX.	IEEE KANSAI SECTION BYLAWS	48

改訂履歴

2017 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時:2017 年 2 月 22 日(水)14 時 00 分~17 時 00 分
2. 場所:マイドーム大阪 8F 第 1,2 会議室
大阪府中央区本町橋 2 番 5 号
3. 総会スケジュール
 1. 支部長挨拶
 2. 役員・理事紹介
 3. 2016 年活動報告および 2017 年活動計画
 4. 2016 年会計報告および 2017 年予算案
 5. Chapter 役員および活動紹介
<休憩>
 6. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞授賞式
 7. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
 8. IEEE 関西支部メダル授賞式
 9. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介及び研究紹介
 10. 閉会の挨拶

I. 2017年関西支部役員・理事

1. 役員 (Section Officers)

Chair:	山本 幹	(関西大学)
Vice Chair:	藤田 正弘	(三菱電機)
Secretary:	武田 保孝	(三菱電機)
Treasurer:	岡 誠次	(三菱電機)

2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	福井 正博	(立命館大学)
NC Chair:	石渕 久生	(大阪府立大学)
SAC Chair:	川村 新	(大阪大学)
TPC Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
AC Chair:	土屋 達弘	(大阪大学)
COC Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)

3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	木戸出 正継	(元奈良先端科学技術大学院大学)
WIE AG Chair:	荒木 章子	(日本電信電話)
YP AG Chair:	和泉 慎太郎	(神戸大学)

4. 理事 (Past Officers)

Past Chair:	山内 寛紀	(立命館大学)
Past Vice Chair:	種谷 元隆	(シャープ)
Past Secretary:	高森 信之	(シャープ)
Past Treasurer:	川村 博史	(シャープ)

5. 理事 (Past Committee Chair)

Past NC Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
----------------	-------	--------

6. Committee Officers

a. Membership Development Committee

Chair:	福井 正博	(立命館大学)
Secretary:	谷口 一徹	(大阪大学)
Member:	勅使川原 正樹	(オムロン)
	中村 孝夫	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府立大学)
	浅井 明	(パナソニック)
	村松 純	(日本電信電話)
	宮本 雅之	(シャープ)
	佐々木 鉄雄	(関西電力)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	小林 浩	(三菱電機)
	中島 重義	(大阪市立大学)
	木村 啓明	(ローム)
	尾原 郁夫	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	柏 卓夫	(古野電気)
	ペーパー フェルナンド	(情報通信研究機構)

b. Nominations Committee

Chair:	石渕 久夫	(大阪府立大学)
Member:	浅田 稔	(大阪大学)
	大村 泰久	(関西大学)
	杉浦 博明	(三菱電機)

c. Student Activities Committee

Chair:	川村 新	(大阪大学)
Vice Chair	福水 洋平	(立命館大学)
Member:	松田 崇弘	(大阪大学)
	石原 亨	(京都大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	間 博人	(同志社大学)
	市川 晃平	(奈良先端科学技術大学院大学)
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)
	平田 孝志	(関西大学)
	奥 宏史	(大阪工業大学)
	澤田 祐一	(京都工芸繊維大学)
(Student Representative)	上村 恭平	(奈良先端大)

d. Technical Program Committee

Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
Vice Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
Secretary:	東坂 範雄	(三菱電機)

e. Awards Committee

Chair:	土屋 達弘	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	太田 能	(神戸大学)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	大橋 正治	(大阪府立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	杉山 久佳	(大阪市立大学)
	中村 匡秀	(神戸大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	村田 英一	(京都大学)
	山田 晃久	(モリタホールディングス)
	杉原 英治	(大阪大学)
	増淵 泉	(神戸大学)
	和田 友孝	(関西大学)

f. Chapter Operations Committee

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Secretary:	西浦 敬信	(立命館大学)
Member:	中村 孝	(ローム)
	永田 真	(神戸大学)
	尾上 孝雄	(大阪大学)
	前川 泰之	(大阪電気通信大学)
	熊本 和夫	(大阪工業大学)
	山下 茂	(立命館大学)
	柏 卓夫	(古野電気)
	裏 升吾	(京都工芸繊維大学)
	河原 達也	(京都大学)
	坂本 直史	(名古屋大学)
	藤崎 泰正	(大阪大学)
	三浦 友史	(大阪大学)
	松井 利之	(大阪府立大学)

g. Life Members Affinity Group

Chair:	木戸出 正継	(元奈良先端大学院大学)
Vice Chair:	中村 行宏	(元京都大学、元立命館大学)
Vice Chair:	小林 正明	(元三菱電機)
Secretary:	森田 修三	(元富士通)

h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	荒木 章子	(日本電信電話)
Vice Chair	柳川 由紀子	(オムロン)
Vice Chair	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary	崔 恩濤	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer	桂井 麻里衣	(同志社大学)

i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	和泉 慎太郎	(神戸大学)
Vice Chair	伊原 彰紀	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary	佐藤 伸吾	(関西大学)
Treasurer	伊藤 信貴	(日本電信電話)

II. 2017 年 Kansai Chapter 役員

1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	中村 孝	(ローム)
Vice Chair:	吉本 昌広	(京都工繊大)
Secretary:	西原 道哲	(立命館大学)
Treasurer:	松田 時宜	(龍谷大学)

2. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	永田 真	(神戸大学)
Vice Chair:	中島 雅逸	(ソシオネクスト)
Secretary:	三浦 典之	(神戸大学)
Treasurer:	新居 浩二	(ルネサス エレクトロニクス)

3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Vice Chair:	小西 啓治	(大阪府立大学)
Secretary:	鳥飼 弘幸	(京都産業大学)
Treasurer:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)

4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	前川 泰之	(大阪電気通信大学)
Vice Chair:	出口 博之	(同志社大学)
Secretary:	阪本 卓也	(兵庫県立大学)
Treasurer:	紀平 一成	(三菱電機)

5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	熊本 和夫	(大阪工業大学)
Vice Chair:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	和田 友孝	(関西大学)
Treasurer:	林 海	(大阪府立大学)

6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	山下 茂	(立命館大学)
Vice Chair:	松島 秀樹	(パナソニック)
Vice Chair:	廣本 正之	(京都大学)
Secretary:	吉岡 康介	(パナソニック)
Treasurer:	田中 輝明	(三菱電機)

7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	柏 卓夫	(古野電気)
Vice Chair:	真田 篤志	(大阪大学)
Secretary:	井上 晃	(三菱電機)
Secretary:	上田 哲也	(京都工芸繊維大学)
Treasurer:	三谷 友彦	(京都大学)

8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	裏 升吾	(京都工芸繊維大学)
Vice Chair:	加藤 友章	(新エネルギー・産業技術総合開発機構)
Secretary:	村田 博司	(大阪大学)
Treasurer:	大和屋 武	(三菱電機)

9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	河原 達也	(京都大学)
Vice Chair:	中谷 智広	(日本電信電話)
Secretary:	秋田 祐哉	(京都大学)
Treasurer:	武田 龍	(大阪大学)

10. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	坂本 直史	(名古屋大学)
Secretary/Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	藤崎 泰正	(大阪大学)
Vice Chair:	太田 快人	(京都大学)
Secretary:	加嶋 健司	(京都大学)
Treasurer:	和田 孝之	(大阪大学)

12. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Chair:	三浦 友史	(大阪大学)
Vice Chair:	森實 俊充	(大阪工業大学)
Secretary:	柿ヶ野 浩明	(立命館大学)
Treasurer:	笠 展幸	(岡山理科大学)

13. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	松井 利之	(大阪府立大学)
Vice Chair:	岡本 好弘	(愛媛大学)
Secretary:	中川 貴	(大阪大学)
Treasurer:	戸川 欣彦	(大阪府立大学)

III. 2017年関西支部 Student Branch 役員

1. 大阪大学 (<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	藤田 玄	大阪電気通信大学 准教授
Chair:	山下 真由	大阪大学大学院 情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	廣末 和輝	大阪大学大学院 情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	白井 僚	大阪大学大学院 情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	深町 太一	大阪大学大学院 情報科学研究科 情報システム工学専攻

2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	石原 亨	情報学研究科
Mentor:	近村 啓史	株式会社フィックスターズ
Chair:	岸野 瞬士	情報学研究科
Vice Chair:	穴吹 元嗣	情報学研究科
Treasurer:	森田 俊平	情報学研究科
Secretary:	村垣 政志	情報学研究科

3. 立命館大学 (<http://www.ieee.se.ritsumeai.ac.jp/J/main.html>)

Counselor:	福水 洋平	(立命館大学)
Chair:	村岸 佑哉	立命館大学 理工学研究科
Vice Chair:	杉山 幸平	立命館大学 理工学研究科
Treasurer:	前川 兎太郎	立命館大学 理工学研究科
Secretary:	横山 智之	立命館大学 理工学研究科

4. 奈良先端科学技術大学院大学 (<http://ieee-sb-naist.github.io/>)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	上村 恭平	奈良先端大 情報科学研究科
Vice Chair:	中川 尊雄	奈良先端大 情報科学研究科
Treasurer:	坂口 英司	奈良先端大 情報科学研究科
Secretary:	田中 大樹	奈良先端大 情報科学研究科

5. 兵庫県立大学 (<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>)

Counselor:	上浦 尚武	(兵庫県立大学)
Mentor:	中嶋 宏	(オムロン)
Chair:	安木 麻倫	兵庫県立大学
Vice Chair:	盛田 健人	兵庫県立大学
Treasurer:	盛田 健人	兵庫県立大学
Secretary:	田下 徳起	兵庫県立大学

6. 関西大学 (http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/)

Counselor:	大村 泰久	(関西大学)
Mentor:	小宮 健治	(シャープ)
Mentor:	辻川 剛範	(日本電気)
Chair:	中平 裕弥	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻
Vice Chair:	阿部 誠也	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻
Vice Chair:	松本 航輝	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻
Treasurer:	大辻 侑樹	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻

7. 同志社大学 (<https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	高橋 康人	(同志社大学)
Chair:	百地 伸行	同志社大学大学院 理工学研究科
Vice Chair:	落合 翼	同志社大学大学院 理工学研究科
Treasurer:	馬場 健	同志社大学大学院 理工学研究科
Secretary:	和田 理	同志社大学大学院 理工学研究科
Counselor:	高橋 康人	(同志社大学)

IV.2016年 活動報告 および 2017年活動計画

1. 総括

【2016年活動報告】

関西支部では、Metro Area Workshop in Kansai, 2016を8月4日～5日の日程で、同志社大学今出川キャンパスにて開催し、300名近い方にご参加いただき、非常に盛大な会合となった。蹴上発電所のマイルストーンが認定(2015年)され、2016年9月12日に式典を実施した。また、シニアメンバーへの昇格推進を継続している。ChapterのSection傘下への移行に伴うJoint Chapter化も順調に進んだ。また、LMAGに続き設立された、WIE、YPの各Affinity Groupの活動も活性化され、関西支部の活動は、ますます拡大、充実しつつある。

【2017年活動計画】

2017年は、Chapter活動、Student Branch活動、Affinity Group活動にも積極的な支援を行い、さらなる活動の活性化を図る。

2. 総会

【2016年活動報告】

2016年2月2日(火)にキャンパスプラザ第3講義室において、2016年総会を開催した。各Committee、Chapter、Affinity Groupからの報告、YP賞授賞式、学生研究奨励賞授賞式、関西支部メダル授与式、新フェロー紹介を実施した。参加者は59名。



学生研究奨励賞受賞者



関西支部メダル受賞者

【2017年予定】

2017年は2月22日(水)13:30～17:00の予定で、定例総会を実施する。

3. 理事会

【2016年活動報告】

2016年は、以下に示す6回の理事会を開催した。

- 第1回理事会 1月18日 立命館大学大阪梅田キャンパス 出席者:14名
- ・2016年活動計画 ・2016年各Committeeの活動計画 ・2016年予算(案)
- 第2回理事会 2月2日 キャンパスプラザ京都 出席者:12名
- ・2016年総会について ・MAWについて
- 第3回理事会 4月25日 立命館大学大阪梅田キャンパス 出席者:14名

- ・ENC Chair 指名 ・2016 年第 1 回 JC 理事会報告 ・第 3 回 IPC 委員会報告
- ・2016 年 MAW 進捗報告 ・関西支部活性化策について
- ・YP 賞、学生研究奨励賞募集について
 - 第 4 回理事会 7 月 6 日 立命館大学梅田キャンパス出席者:12 名
- ・MAW 準備進捗状況 ・蹴上マイルストーン贈呈式典進捗状況
- ・2016 年 会計中間報告 ・次期役員選出について
 - 第 5 回理事会 9 月 23 日 立命館大学梅田キャンパス 出席者:13 名
- ・MAW 開催報告 ・蹴上 Milestone 贈呈式典報告 会計中間報告
- ・各種支援検討
 - 第 6 回理事会 12 月 20 日 立命館大学梅田キャンパス 出席者:23 名
- ・2017・2018 年の理事会体制について ・YP 賞、学生研究奨励賞承認
- ・2016 年活動報告／2017 年活動計画
- ・2016 年会計報告／2017 年予算案
- ・第 3 回 JC 理事会報告
- ・その他報告

【2017 年活動計画】

- 第 1 回理事会 1 月 31 日 関西大学梅田キャンパス 出席者:15 名
- ・2017 年活動計画 ・2017 年各 Committee の活動計画 ・2017 年予算(案)
 - 第 2 回理事会 2 月 22 日 マイドームおおさか
- ・2016 年総会について
 - 2017 年は、計 5 回の理事会の開催を予定している。

4. 関西支部主催講演会

【2016 年活動報告】

TPC および LMAG の企画により見学会および技術講演会を開催した。講演者等の詳細は LMAG および TPC 活動報告参照。



蹴上発電所の歴史と発展



IEEE-SA 会長 Bruce Kraemer 氏のご講演

【2017 年活動計画】

2017 年も同様に講演会を開催し、支部の活性化を図る。

5. Metro Area Workshop in Kansai, 2016 [MAW]

昨年の東京開催に引き続き、関西支部で 2016 年に MAW を開催した。関西の特徴である、中小企業、大企業、各種研究機関などが集約しており、医療、バイオ、材料、デバイスなどの開発が盛んであることにフォーカスし、MAW を開催した。

2015 年 5 月より準備委員会を立ち上げ、2016 を 8 月 4 日～5 日の日程で、同志社大学今出川キャンパスにて開催し、300 名近い方にご参加いただき、非常に盛大な会合となった。積極的な参加勧誘を行うことにより、IEEE 非会員の方にも参加者の約半数となり、これまで IEEE をあまりご存知なかった方々にもご参加いただくことができた。

それぞれの分野で著名な方々をお招きし、ご講演、パネルセッションなど活発な議論が行われた。また、学生研究発表、Student Branch 活動発表、Chapter 活動発表などのポスターセッションも開催し、IEEE 活動をご参加いただいた非会員の方にご覧いただくよい機会となった。



セッションの様子



ネットワーキング

6. IEEE マイルストーン

【2016 年活動報告】

関西支部から推薦した蹴上発電所が IEEE マイルストーンに認定され、認定式典 (dedication ceremony) が開催された。

☆Keage Power Station: Japan's First Commercial Hydroelectric Plant, 1890-1897

- ・ 対象企業・団体:京都市、関西電力株式会社
- ・ Proposal Form 提出:2015 年 2 月 4 日
Board of Directors による最終承認:2015 年 11 月 23 日
- ・ 2016 年 9 月 12 日、ウェスティン都ホテル京都にて贈呈式典、記念祝賀会、発電所見学会を開催
- ・ IEEE Past-President の Howard Michel 氏より、京都市、関西電力(株)が銘板 (Plaque)を受領
全体で 170 件目、日本で 29 件目、関西支部で 8 件目



蹴上発電所プラーク受領



蹴上発電所見学会

【2017 年予定】

現段階では、2017 年は関西支部での Milestone 認定の予定はない。

さらなる Milestone 認定に向けた活性化を行うため、2017 年は 8 月 7 日～8 日に兵庫県立大学で Histelcon を開催する。

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/histelcon2017/>



7. 新組織の変更等

【2016 年活動報告】

IEEE Industry Application Society Japan Chapter (IA-34) が、関西支部も含み、東京支部を親とする全支部 Joint Chapter となる予定。

現状では、関西支部が親となっている Joint Chapter は 4 Chapters、関西支部単独の Chapter は 9 Chapters、東京支部が親となる Joint Chapter に関西支部が参画しているのは、22 Chapters となっている。

8. Region 10 Meeting

【2016 年活動報告】

2016 年 3 月 5 日(土)～ 6 日(日)の日程でタイのバンコックで開催される Region 10 Meeting には、関西支部より種谷 Vice Chair が参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努めた。

【2017年活動計画】

2017年3月4日(土)～5日(日)の日程で千葉工業大学にて開催されるRegion 10 Meetingには、関西支部より例年通り参加し、R10の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

9. Region 10 Congress

【2016年活動報告】

2016年8月25日～27日にバンガロール(インド)で開催されたIEEE Region 10 Student/YP/WIE/LMAG Congress 2016に関西支部から岡様、杉山様の2名の学生が参加し、各国の参加者と情報共有及びネットワークの構築を行った。学生にとって海外の学生との交流は非常に刺激となった。

【2017年活動計画】

2017年は、8月11日(金)～13日(日)にシドニーでSection Congressが開催される。関西支部からも例年通り参加し、IEEE活動の活性化に向けた議論に積極的に参加する。

2017年も、活性化を継続するため、IEEE Region 10 Student/YP/WIE/LMAG Congress 2017が開催される場合には、学生2名の参加を予定している。

10. 協賛会議

【2016年活動報告】

- ・平成28年 電気関係学会関西連合大会
主催:電気学会 関西支部
電子情報通信学会 関西支部
映像情報メディア学会 関西支部
電気設備学会 関西支部
日時:平成28年11月22日(火)～11月23日(水・祝)
場所:大阪府立大学

- ・第3回電子デバイスフォーラム京都
主催:(一社)日本電子デバイス産業協会(NEDIA)
日時:2016年11月1日(火)10:00～11月2日(水)17:00
場所:京都リサーチパーク(KRP)

- ・平成28年 電気学会 電子・情報・システム部門大会
主催:電気学会 電子・情報・システム部門
日時:平成28年8月31日(水)～9月3日(土)
場所:神戸大学 六甲台第2キャンパス

11. 情報発信

【2016年活動報告】

関西支部 Web ページ

Japan Council のサーバに設置されている下記ホームページで、技術講演会の案内、マイルストーン認定式典の報告など、タイムリーに情報発信した。また、トップページにてスライドショー形式による最近のイベント等の写真の表示、ドロップダウン形式のメニューの導入など、利便性を向上させた。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

Newsletter の発行

- ・No.30(2016年6月13日発行):総会の様子や YP 賞、学生研究奨励賞の受賞者紹介をはじめ、関西支部に関する情報を提供。また、2016年の YP 賞、学生研究奨励賞の募集要項に関する情報を掲載
- ・No.31(2016年9月30日発行):2017/2018年の関西支部役員及び理事候補者の公告に関する情報を掲載。さらに技術講演会や Metro Area Workshop の様子や蹴上水力発電所の Milestone 記念式典の様子を紹介。

【2017年活動計画】

関西支部 Web ページ

関西支部のホームページで、各種情報を発信して、会員メリットの向上に努める。

Newsletter もタイムリーに発信をしていく。

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れる。

12. 各 Committee/Affinity Group からの報告

a. Membership Development Committee

【2016年活動報告】

2016年は、従来の MDC と SAC に加え YP も交えて、2回の MDC&SAC&YP Joint Workshop を開催した。第1回は6月3日(金)に、第2回を11月24日(木)にそれぞれ新大阪で開催した。MDC、SAC、YP に参加している委員の組織を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力

を入れた。

2016年11月8日現在、会員数は2,203名となった。会員数の減少を食い止めるためにはRenewのし忘れを防ぐことが重要な課題であるため、Renew時期に適宜その旨のメールを配信した。また、シニアメンバーへのアップグレードを推進することを活動の中心としてアップグレードのためのスキームを構築し、そのサポートを行っている。その結果、2016年の昇格者が11名となった。

【2017年活動計画】

2017年は、本年と同様の方針で会員増に向けた活動を行う。特に、MDC&SACに委員を出していない会員数が多い組織に声をかけ、新たに委員を増やすことで会員数の増加を狙う。

- MDC/SAC/YP Joint Workshop 開催
 - 第1回:5月頃、第2回:11月頃
- シニアメンバーへのアップグレードサポート
- IEEEのポスターやパンフレットなどを学会などで適宜配布して入会を呼びかける
- Renew促進のメールを送信してRenew忘れによる会員減を防ぐ

b. Nominations Committee

【2016年活動報告】

2016年3月1日締め切りの2017年Fellow Nominationに際し、関西支部から数名のFellow推薦を行なった。その結果、1名のFellow昇格となった。

【2017年活動計画】

2017年は、2017年3月1日締め切りの2018年Fellow Nominationに関して、関西支部内の現Fellowに対し新Fellowの推薦を依頼するとともに、現Seniorに対してもNomineeとなることを勧める。

c. Student Activities Committee

【2016年活動報告】

SACでは、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行ってきた。

- (1) 既存7大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)のStudent Branch (SB)を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) MDCとSACと合同でWorkshopを開催(6月、11月)し、連携して会員の増強、YP会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (3) 各SBのChairを集めStudent Branch Chair Meetingを開催(5月2日)。前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行うとともに、互いに交流を深めた。

- (4) 新しい活動として、阪大 SB が中心となり、SB 研究交流会を立ち上げ、7 月 23 日に実施した。招待講演に加え、各 SB から研究発表が行われ、その後、交流会を実施した。
- (5) SB 全体のイベントとして、立命館大学 English Presentation Competition を 10 月 7 日に実施した。優秀発表者に IEEE 関西支部 SAC から表彰状を授与した。また、関西支部からの補助を受け、懇親会を実施した。
- (6) 7 大学 SB 合同で関西支部 Student Branch 交流会を 12 月 23 日に開催した。
- (7) AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。詳細は [11-e. Award Committee](#) 報告の項を参照のこと。

【2017 年活動計画】

(1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、その他の大学、高専を対象に新 SB の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。また、LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。

(3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を (AC と共同する形で) 継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

【2016年活動報告】

以下の表に示す計7回の技術講演会を実施した。

	開催日	場 所	講 演 者	参加者数 (IEEE会員)	共催・協賛組織名
第 91 回	2016年 4月18日	講演: IEEE Standards Association and Future Technology Directions パネル討論: What practices can help standards become truly market-driven -Do standards prompt or prevent technology progresses?-			
		同志社大学 京 田辺キャンパス 香知館 KC308 会議室	講演者: Mr. Bruce Kraemer (IEEE-SA President and past chair of IEEE 802.11 working group) パネリスト: 田邊 信二氏 (三菱電機) Mr. Bruce Kraemer (IEEE-SA) Mr. Jing Walter Sun (IEEE-SA) 和田 元 教授 (同志社大学) 荒巻 道昌 氏 (パナソニック) 坂野 寿和 氏 (ATR)	46 (12)	
第 92 回	2016年 6月30日	テーマ: Low-Density Parity-Check Codes for Communication Systems: Decoding Algorithms and VLSI Designs			
		同志社大学 京 田辺キャンパス 香知館 KC308 会議室	Prof. Yeong Luh Ueng (National Tsing Hua University, Taiwan)	20 (7)	IEEE Communications Society Kansai Chapter IEEE Circuits and Systems Society Kansai Chapter
M A W	2016年 8月5日	テーマ: IEEE Metro Area Workshop in Kansai, 2016			
		同志社大学 今 出川キャンパス 良心館	・石黒 浩 氏 (大阪大学大学院 特別教授) ・池森 啓雄 氏 (近畿経済産業局長)	276 (170)	
第 93 回	2016年 8月22日	テーマ: AI/Deep Learning, Its Principle and Applications in Robot and Self-Driving Car			
		同志社大学 京 田辺キャンパス 香知館 KC308 会議室	・Prof. Li Ping (IEEE Fellow, City University of Hong Kong)	18 (7)	同志社大学 京田辺キャンパス 香知館 KC308 会議室

Milestone	2016年 9月24日	テーマ： 蹴上発電所 IEEE Milestone 記念式典 見学講演会			
		京都市蹴上発電所	・八鍬 正男 氏 (関西電力株式会社 京都電力所 所長) ・久岡 道武 氏 (琵琶湖疏水記念館 学芸員)	35(17)	
第94回	2016年 10月12日	テーマ： 考古学とIEEE学会技術の接点			
		奈良県立橿原考古学研究所、考古学研究所 附属博物館	・奥山 誠義 氏 (奈良県立橿原考古学研究所 企画部資料課指導研究員)	15(11)	IEEE 関西支部 LMAG
第95回	2016年 11月30日	テーマ： 雷観測と雷対策			
		音羽電機工業株式会社 営業本部 (雷テクノロジーセンター)	・河崎 善一郎 氏	12(9)	音羽電機工業株式会社 営業本部 (雷テクノロジーセンター)

【2017年活動計画】

2016年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2017年も5回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

特に特定の Chapter に属さないような横断的/学際的分野、技術の方向性、イノベーション、グローバル化といった内容の講演会も積極的に開催する。

e. Awards Committee

【2016年活動報告】

2014年、2015年に引き続き、「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」の募集を行った。本賞では、学生会員、大学や研究所の若手研究員、企業の若手会員の3種類の表彰を行っている。2016年は10月5日に応募を締め切って、全体で1名の応募者があった。当委員会による議論の後、1名の受賞者を12月20日の支部理事会で決定した。

また、「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、2016年も継続してSACと合同で審査委員会を設立して行った。10月5日に応募を締め切ったところ、20名の応募者があった。当委員会による選定の後、12月20日の支部理事会で11名の受賞者を決定した。

【2017年活動計画】

2017年は、若手会員の増強施策としての「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」、なら

びに学生会員の増強施策としての「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の募集のより一層の活性化と選定作業を継続して行う。2016 年は応募開始時期をこれまでより数カ月早めるなどの措置を講じ、その結果、学生研究奨励賞への応募数が大幅に増加した。しかし、Young Professionals 賞については依然応募数が少ないため、研究だけでなく関西支部への多様な貢献が表彰理由になる点や、過去に選に漏れた方も再応募可能な点などを強調することで、応募への心理的な妨げを取り除く。

また、賞の存在が学生や若手技術者が会員となる契機となるように、関西支部が関与する種々の研究集会において賞の存在をより積極的に周知する。

f. Chapter Operations Committee

【2016 年活動報告】

現存 Chapter の活動を支援するとともに、Chapter 新設への支援を行っている。具体的には、JC COC と連携して進めている本部へのオンライン書類提出、Chapter 支援費、Section 傘下への移行支援、国際会議実施での MOU 締結手続き、ソサイエティ別 Section 所属会員数の提供、petition 作成支援等である。また、Kansai Section 独自の Chapter 支援策についても検討を行い、2017 年から実施を予定している。さらに、JC COC ミーティングにあわせて、Kansai Section COC ミーティングも開催した。

【2017 年活動計画】

2017 年は、関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して、各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行く報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、これまでに引続き関西支部での Chapter を支援するため、新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを行う。他 Section との合同 Chapter 設立についても積極的に推進する。また、Kansai Section 独自の Chapter 支援も実施する。

g. Life Members Affinity Group

【2016 年活動報告】

活動 4 年目として LMAG 活動を活性化させるべく、2 回の LMAG 主催の現地講演会・見学会を、技術講演会の一環として関西支部 TPC との共催で、10 月 12 日に奈良県立橿原考古学研究所、11 月 30 日に音羽電機工業株式会社(尼崎市)において、それぞれ開催した。各講演会の後には有志による懇親会を開催し、今後の活動の進め方や教育の在り方等を論議するとともに、会員間の親睦も深めた。これらにより現地講演会というスタイルがいつそう定着した。

また、役員会は 4 回開催した。第 1 回(2 月 2 日、キャンパスプラザ京都)、第 2 回(4 月 13 日、淀屋橋住友ビル)、第 3 回(7 月 6 日、京都コンピュータ学院)において、今後の LMAG 活動の進め方、運営内容、LMAG サロンの開設について議論した。第 4 回(11 月 8 日、淀屋橋住友ビ

ル)は 2017 年役員を交えて開催し、2016 年の活動のまとめと来年の活動の具体化、とりわけ LMAG サロンの実施内容について議論した。

新たな活動を二つ行った。一つは、LMAG ピンバッジの新規製作である。LMAG のイベント等に参加する際、LMAG 会員はこれを着け、LM としての一体感を高めている。もう一つは、気さくに集まって情報交換・技術交流が図れる LMAG サロンの開設である。7 月に関係者で試行し、関西支部理事会の助言も得て、学生 SB を巻き込んだ形の開催に向けて準備を進め、12 月に初回の LMAG サロンを開催した。

他組織との連携も密になってきた。8 月の MAW、10 月の SB 英語発表会、WIE イベントに LMAG が参画あるいは LMAG 会員が参加し、意見や見識を述べるなどした。

6 月と 9 月に「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて掲載の案内をした。9 月号では、2017-2018 年の役員を公告し、期限までに別提案がなかったことから、2017 年からの新役員体制が確立した。

【2017 年活動計画】

活動 5 年目として、新役員体制の下、より活動を活発化させる。2016 年と同様に関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会(現地講演会も含む)を開催する。LMAG サロンの活動を定着させることも大きな目標としている。同時に YP や SB との連携・交流を、連携先の諸活動に LMAG 会員が参加してその活動を盛り上げることにより、活発化させる。また、「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて掲載の案内をする。

h. WIE Affinity Group

【2016 年活動報告】

(1) Kansai WIE シンポジウム

10 月 22 日に大阪工業大学うめきたナレッジセンターにて、「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2016 – Enjoy Science, Technology and Your Life!」を開催した。Young Professionals (YP) AG に共催いただき、企画・広報に関して協力し準備を行った。また、内閣府男女共同参画局と日本経済新聞社にご後援いただき、主に広報面での支援を受けた。

シンポジウムでは、橋本隆子氏(IEEE WIE Chair)、矢野絵美氏(IEEE Japan Council WIE Chair)からのメッセージに続き、女性研究者による以下の講演が行われた。

・ Unconscious bias - VMware の取り組み(VMware, Inc. 石川英恵 氏)

・ 会いに行きたい！に答える知能化モビリティ研究 -通信工学専攻から自動車メーカーに飛び込んで- (株式会社 本田技術研究所 阿部ちひろ 氏)

シンポジウムの後半は、全員参加型のワークショップを実施した。コーディネータに、東大阪にてご活躍の 東山 香子 氏(株式会社エストロラボ 社長)をお迎えし、「なぜ理系に女子は少ないのか考えてみよう！」をテーマにグループごとに意見交換を行った。

シンポジウムへの参加者は 43 名(うち IEEE 会員は 26 名)であった。IEEE の非会員である若い世代の参加者も多く、シンポジウムの目的の一つである若い世代の女性に科学者・技

術者の魅力を伝えることができたのではと思われる。また、今回が第3回目となるシンポジウムであったが、参加者数は回を重ねるごとに増加しており、本シンポジウムはWIE AGの年間活動の軸となるイベントとして一定の確立を見たと考えている。

(2) 役員会

第1回(1/8 ブリックキーヌー茶屋町店)、第2回(5/11 奈良先端科学技術大学院大学)、第3回(7/8 奈良先端科学技術大学院大学)、第4回(8/30 奈良先端科学技術大学院大学)、第5回(10/22 グランフロント大阪)と開催し、主にMAW in Kansai 2016 およびWIEシンポジウムの準備やWIEの運営体制の検討を行った。

(3) 協賛およびその他の活動

- ・8/5 Metro Area Workshop (MAW) in Kansai 2016 におけるポスター発表
(関西支部 WIE AG の活動報告)
- ・8/6 IEEE JAPAN SYWL WORKSHOP Kansai 2016 共催および参加
- ・同志社大学「科学するガールズ」養成プログラム ※
8/10 同志社大学ガールズサイエンスキャンプ 企業見学会の対応
- ・第8回 IEEE キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテスト (全国のYP/WIE AGとの共催)

※平成28年 国立研究開発法人 科学技術振興機構 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 採択事業



IEEE Kansai WIE シンポジウム



MAW2016 ポスター

【2017年活動計画】

2017年は、

- ・ WIE活動に賛同するメンバーを募り、運営体制を強化する。
- ・ 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。
- ・ Student Branch, YPs, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しな

がら、関西での WIE 活動を推進する。

i. Young Professionals Affinity Group

【2016 年活動報告】

2016 年は、MAW にてグループ活動を紹介しつつ(右図)、昨年引き続き共催等で WIE や SAC と連携して様々なイベントを開催した。また、現役員の任期が終わる 2 年目の年なので、2017/2018 年関西支部 YP AG 役員候補者公告を行った。役員候補者に加えて追加候補者を募ったところ特に表明が無かったため役員交代の作業を予定している。

【2017 年活動計画】

2017 年は、新しい役員のもと、これまで培ったイベント開催等の知見を基に独自のイベントを立ち上げ、YP 活動の利点を広く周知する。そして関西地区の若手研究者・技術者間の交流を促進し、キャリアアップ等につなげていく予定である。更に YP の活動を通して IEEE 新規会員の増加にも力を入れる。

- (1) これまでに行った、MDC とのワークショップ、WIE シンポジウム、Tokyo YP とのエッセイコンテスト、Ritsumeikan SB との英語プレゼンテーション大会等共催イベントを引き続き行う。
- (2) 2017 年前半に単度のイベントとして、関西地区の工場見学を行う。また参加者である若手研究者、及び技術者間の交流を図る。
- (3) コンテスト等受賞者が出せる様なイベントを企画する。
- (4) 異分野の若手研究者、及び技術者を集めて、気軽に話せるような交流会を企画する。
- (5) YP のイベントに参加した会員に声をかけ、新たに IEEE 会員を増やすことで IEEE Kansai の活性化を狙う。

IEEE
関西
YP

IEEE関西YP (Young Professional)グループは東京に次いで、日本で2番目に設立されたAffinity groupです。若手の研究者や技術者の交流を図るべく、様々なイベントを企画・運営しております。

グループの活動に興味がある方は、是非我々の活動に加わって下さい。一緒に関西を活性化させましょう！

どういう人がYPなの？
学部や大学院卒15年以内の方が対象です。詳しくは自分のIEEEアカウントを確認下さい。対象の方は自動的にYPになっております(入会費はかかりません)。


**企業の方、
大学の方、
その他皆さん
活動に参加
しよう！**



2015年活動記録
(03.11)2015年第1回IEEE Kansai section YP AG meeting
(04.08) IEEE Kansai section YP banner受領
(04.16) IEEE本部からのデレゲーションに参加
(05.20) R10 YP Initiatives Grant申し込み。
英語プレゼンテーション大会の支援金
(05.27) IEEE MAW (Metro Area Workshop) in Tokyo
(06.18) 2015年第1回 IEEE Kansai section MDC & SAC & YP joint workshop
(07.01) WIEシンポジウム企画会議
(07.06) 2015年第2回 JC理事会
(07.09-12) IEEE R10 Student YP WIE congress
(08.17) WIEシンポジウム企画会議
(08.21) R10 YP Initiatives Grant confirmation sheet送付
・英語プレゼンテーション大会の支援金獲得後の情報送付
(08.21) IEEE Kansai Section YP AG meeting開催
(09.25) Tokyo YP エッセイコンテスト共催
(09.26) WIEシンポジウム共催
(10.16) Ritsumeikan university IEEE student branch English presentation competition
(12.11) 2015年第1回 IEEE Kansai section MDC & SAC & YP joint workshop

質問等はここまで、立命館大学電子情報工学科
YP chair 熊木武志 kumaki@fcr.ritsumei.ac.jp

13. Kansai Chapter 活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

【2016 年活動報告】

1月20日にIEDM2016報告会を大阪工業大学うめきたナレッジセンターにて開催し、2名の講師が同会議の参加者に対して、センサー技術とニューロモフィックデバイスおよびモデリングとシリコンデバイスの技術情報についてご講演頂いた。その後、チャプター総会を開催。

6月23日～24日には、国際会議“2016 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2016)”を京都駅前の龍谷大学響都ホールにて開催(IEEE MTT-S 関西チャプターとの共催)。学生55名や一般参加者53名、合計108名の方々に参加頂き、うちEDSは5件の招待講演(Keynote: 1件, Invited: 3件)、11件の一般講演及び28件のポスター講演(ショートプレゼンテーション付き)を実施した。また、本会議に先立って“The Coming SiC/GaN Age”と“Oxide thin-film transistor technology and its application to flexible displays”と題して2件のチュートリアル講演会を開催。

9月1日に奈良先端科学技術大学院大学においてパワーデバイスの基礎に関する技術講演会を開催。濱田弘喜氏(大阪大学)には、「研究開発のブレイクスルーを求めて」と題して講演頂いた。また、安本慶一氏(奈良先端科学技術大学院大学)に「IoT がもたらすスマート社会」の講演を頂いた。上沼睦典氏(奈良先端科学技術大学院大学)には、「透明酸化半導体を用いた熱電変換素子」の講演を頂いた。

【2017年活動計画】

2016年も技術講演会を中心に活動を展開する。特に若手研究者を主な対象とした学会や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。具体的には以下の通り計画している。

1月30日に、大阪工大うめきたナレッジセンターにおいて、「関西コロキウム電子デバイスワークショップ」を開催予定。

6月29日～30日年半ばには国際会議である“2017 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2017)”を龍谷大学アバンティ響都ホールにて開催を予定。招待講演(Keynote および Invited)、一般講演およびポスター講演(ショートプレゼンテーション付き)を実施する。学生や若手研究者を中心に参加頂き、会員の活発な技術交流と教育の場を提供する。先進性に優れていると判断された論文の著者にAwardを授与し、その学術的貢献を表彰する。また、本会議に先立って、チュートリアル講演会を開催する計画である。

7月頃には注目されている分野の専門家を招いた技術講演会および、11月頃には技術講演会としてはすでに定例となった関西コロキウム電子デバイスワークショップを開催し、講師には国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂く予定である。先進性に優れていると判断された論文の著者にAwardを授与し、その学術的貢献を表彰する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

【2016年活動報告】

1月13日に、A-SSCC2016報告会をIEEE SSCS Japan Chapterと共催で東京大学VDEC 武田先端知ビル・武田ホールで開催し、12名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。

2月17日に、ISSCC2016報告会をIEEE SSCS Japan Chapterと共催で東京工業大学

大岡山キャンパスにて開催し、16名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。

5月16～17日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“LSI and Systems Workshop 2016”を北九州国際会議場で開催した。参加人数は440名であった。ポスター講演は73件あり、SSCS Kansai Chapterからは2件のAcademic Research Awardを表彰した。

6月24日に、2016 Symposium on VLSI Circuits 報告会をIEEE SSCS Japan Chapterと共催で神戸大学梅田インテリジェントラボラトリにて開催し、12名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。出席者は80名であった。また、同時開催講演会としてIEEE SSCS Distinguished Lecturerのマイクロメモリジャパンの高井康浩氏をお招きし、“Low-Power High-Bandwidth DRAM Circuit Design ～LPDDR～(低電力広バンド幅DRAM回路設計 ～LPDDR～)”という題目でDL講演会を実施した。

8月25～26日に、東京大学大規模集積システム設計教育研究センター(VDEC)、IEEE SSCS Japan Chapterと共催で、“VDEC デザイナーズフォーラム 2016”を東京大学武田先端知ビル5階武田ホールにて開催した。プレナリー講演として、高河原和彦氏(NTT)によるウェアラブルデバイスによるタセンシング技術と応用展開という題目で講演会を実施した。一般講演者19名、パネルセッション1件を開催し、参加人数は約50名であった。SSCS Kansai Chapterからは学会運営支援費を拠出した。

11月11日に、IEEE A-SSCC 2016 報告会をIEEE SSCS Japan Chapterと共催で東京大学VDEC武田先端知ビル・武田ホールにおいて開催し、12名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。また、同時開催講演会としてUCLA Asad Abidi 教授をお招きし、“Design of PLLs with Binary Phase Detectors for Frequency Synthesis & CDR”という題目で講演会を実施した。

【2017年活動計画】

2017年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。2月頃に技術講演会を開催し、国内外より著名なVLSI設計関連の技術者を招く予定である。さらに、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛するとともに、協賛金とAwardを出し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

【2016年活動報告】

2016年は、3件の技術講演会を実施し、その他に国際会議の共催を1件、セミナーの共催を2件、国際シンポジウムや国内ワークショップの協賛を3件、Administrative Meetingを2回実施した。特に3件の技術講演会は、多数の学生や一般の参加者があり大変好評だった。さらに活発な議論も行われ、多くの参加者の今後の研究等の活動にも役立つと考えられた。詳細は

以下のとおりである。

- 1) 6月30日に同志社大学において、Yeong Luh Ueng 教授(国立清華大学)をお招きし、”Low-Density Parity-Check Codes for Communication Systems: Decoding Algorithms and Designs ”の技術講演会を共催(主催は IEEE Kansai Section, IEEE COMS Kansai Chapter も共催)。(参加者 27名)
- 2) 7月8日に京都工芸繊維大学において森 一之 氏(三菱電機)をお招きして、「システム最適化の産業応用」として技術講演会を実施。(参加者 91名)
- 3) 12月20日に京都工芸繊維大学において山田 誠二 教授(国立情報学研究所)をお招きして、「インタラクティブ AI を目指して –AHI と IIS」として技術講演会を実施。(参加 244名)
- 4) 7月31日～8月2日に National Cheng Kung University にて Taiwan and Japan Conference on Circuits and Systems (TJCAS'16)を開催(CASS Japan Joint Chapter および CASS Taipei/Tainan/Fukuoka/Shikoku Chapter と共催)。(参加 119名)
- 5) 10月24日～25日に京都市サーチパークにおいて、The 20th Workshop on Synthesis And System Integration of Mixed Information technologies (SASIMI 2016)に協賛。(参加者 180名)
- 6) 11月10日～12日に北九州国際会議場において、第59回自動制御連合講演会に協賛。(参加者 700名)
- 7) 11月28日～30日に立命館大学において、デザインガイア 2016 –New Field of VLSI Design-に協賛。(参加者 200名)

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催するとともに、国際シンポジウムや国内ワークショップ等にも協賛することで、参加者との交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努め、CASS 関西チャプターの活動をアピールすることもできた。

なお、実施したものや今後の予定については、詳細を以下の URL に掲載している。

【2017年活動計画】

2017年も2016年と同様に、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

【2016年活動報告】

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および(2)各種研究会・講演会活動を通して関西

圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動するため、1月23日に第1回役員会を開催して本年の活動計画を策定した。

5月19日に、神戸大学 瀧川記念学術交流会館にて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、臼井 英之 教授(神戸大)より「スーパーコンピュータで宇宙を拓く」と題してご講演を頂いた。

8月26、27日に、関西学院大学にて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、関西学院大学 多賀 登喜雄 教授より「無線通信の高度化を支える伝搬解析技術 –幾何光学計算による電波伝搬解析プログラムの基礎(実践プログラミング)–」と題してご講演を頂いた。参加者総数は33名であった。

11月24日に、京都市国際交流会館にて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演会を主催し、守倉 正博 教授(京都大)より「人体遮蔽の影響を低減する RGB-D カメラを用いた高品質 60 GHz 無線 LAN」と題してご講演を頂いた。

12月10日には MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を大阪電気通信大学において開催し、西本 研悟氏(三菱電機)より「移動体通信用アンテナの高性能化に関する研究」と題して、大学院生を対象とした実際の研究開発活動の体験を講演していただいた。さらに、各大学、企業からのポスター展示を行い、活発な討論が行われた。

【2017年活動計画】

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および (2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動し、1月に広島大学、4月に大阪大学において、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を計画。MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

【2016年活動報告】

2016年は5件の技術講演会の主催、1件の技術講演会の共催を行った。COMS Kansaiとして、主に学生や若手研究者を対象とした通信技術の研究成果情報の提供を行い、技術講演会の開催ならびに学生ワークショップを実施し会員獲得のための活動を行った。

1つ目の技術講演会は、4月13日に大阪工業大学うめきたナレッジセンターにて、University of Victoria の Xiaodai Dong 先生に「Hybrid Processing in Massive MIMO for 5G Mobile Networks」と題して講演をしていただいた。聴講者数22名のうち会員は8名であった。6月1日に大阪工業大学うめきたナレッジセンターにて、University College London の Kai-Kit Wong 先生に「ZF Beamforming for MISO Interference Channels without Crosstalk CSI」と題して講演をしていただいた。聴講者数14名のうち会員は5名で

あった。6月30日に同志社大学 京田辺キャンパス 香知館 KC308 会議室で Prof. Yeong Luh Ueng, National Tsing Hua University, Taiwan により Low-Density Parity-Check Codes for Communication Systems: Decoding Algorithms and VLSI Designs と題して行われた Kansai Chapter 主催の講演会に対して、本チャプターは共催として運営した。聴講者数 20 名のうち、会員は 7 名であった。7月27日に IEEE Communications Society Distinguish Lecturer である The Chinese University of Hong Kong の Jianwei Huang 教授に「Incentive Mechanisms for User-Provided Networks」と題して講演して頂いた。聴講者数 12 名のうち会員は 7 名だった。10月4日に大阪府立大学 I-site なんばにて、The University of Danang の Hung Nguyen-Le 先生に「Robust Precoding and Postcoding for Multicell Multiuser Transmission」と題して講演をしていただいた。聴講者数 15 名のうち、会員は 10 名であった。

11月26日には大阪府立大学 I-site なんばで学生ワークショップを開催した。TPC を構成し各プレゼンテーションの審査を行い、優れた発表者1名に Award を贈呈した。同日、役員会も実施した。

広報活動を活性化するため Web サイトを活用して COMS Kansai Chapter に関する情報公開を行なっている。活動計画や報告は下記の URL により提供している。

【2017 年活動計画】

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的として講演会を開催する。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。昨年と同様の活動を計画しており、7月に講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。11月に大学院生や学部学生を対象とした IEEE COMS Kansai Student Workshop を開催することを予定している。また、他の研究講演会への積極的な共催を図り、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

【2016 年活動報告】

2016 年は 2 件の技術講演会の主催、1 件の技術講演会の共催、3 件の協賛を行った。技術講演会の内容は、具体的に次のとおりである。

2016 年 7 月 28 日(木)に、キャンパスプラザ京都に於いて、制御システムにおけるサイバーセキュリティというテーマで 2 件の講演を行った。1 件目は「セーフティ、セキュリティと事業継続性」と題して、名古屋工業大学の青山 友美氏にご講演頂いた。Industry4.0 で工場のネットワーク化が進む中、工場におけるセーフティ、セキュリティについてご紹介をいただいた。2 件目は「IoT 時代のクルマのセキュリティ」と題して、トヨタIT開発センターの小熊 寿氏にご講演頂いた。自動車のネット接続がもたらすセキュリティ脅威とその対策に関する動向について、ご紹介をいただ

き、ご議論頂いた。講演会では、67名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

2016年12月7日(金)に、京都大学に於いて、「モデルにもとづくシステムズエンジニアリングの進め方」をテーマに2件の講演を行う予定である。1件目は、「複雑なシステムの開発に対するモデルに基づく最新のアプローチ」と題して、慶應義塾大学の西村 秀和氏にご講演頂く。2件目は、「実務者から見たモデルベースシステムズエンジニアリング(MBSE)導入の勘所」と題して、コギトマキナの鈴木 尚志氏にご講演頂く。

2016年8月22日には、同志社大学 京田辺キャンパスで、IEEE Kansai Section 第93回技術講演会の共催を行った。「AI/Deep Learning, Its Principle and Applications in Robot and Self-Driving Car」と題して、Panasonic R&D Center Singapore の Jane Shen Shengmei 氏にご講演頂いた(参加者:50名)。

2016年5月16-17日には、東京大学 生産技術研究所で行われた、LSIとシステムのワークショップの協賛を行った(参加者:463名)。2016年10月24-25日には、京都リサーチパークで行われた、The 20th Workshop on Synthesis and System Integration of Mixed Information technologies (SASIMI 2016)の協賛を行った(参加者:174名)。2016年7月15日には立命館大学 びわこ・くさつキャンパスで行われた、Optimizing neural networks from algorithm to chip implementation の協賛を行った。Seoul National University, Korea の Sungjoo Yoo 先生にご講演を頂いた(12名)。

技術講演会等の詳細は下記のURLに掲載している。技術講演会等の詳細は下記のURLに掲載している。

【2017年活動計画】

2017年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。2016年は国外研究者の講演会の協賛を行った。2017年も関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

【2016年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会(主催) 宇宙・海洋・地中へ広がるマイクロ波応用ワークショップ

演者/演題: 石川 容平 (京都大学) / 海洋インバースダムとマイクロ波伝送

演者/演題: 吉田 弘 (海洋開発研究機構) / 海中における電磁波伝播とその応用

演者/演題: 佐藤 源之 (東北大学) / 地中レーダ: 遺跡調査、地雷からインフラモニタリングまで

演者／演題：栗井 郁雄（リユーテック）／媒質中ワイヤレス給電は未知に満ちている
2016年1月23日／龍谷大学 大阪梅田キャンパス／出席者数：45名

2. 講演会（共催）Distinguished Microwave Lecturer 講演会

演者：篠原真毅（京都大学）

演題：マイクロ波送電研究開発の現状

2016年4月21日(木)／機械振興会館／出席者数：73名

3. 講演会（主催）Distinguished Microwave Lecturer 講演会

演者：Dr. Earl McCune (RF Communications Consulting)

演題：Embrace Circuit Nonlinearity to get Transmitter Linearity and Energy Efficiency

2016年5月19日(木)／京都大学 宇治キャンパス／出席者数：37名

4. 講演会（共催）Distinguished Microwave Lecturer 講演会

演者：永妻忠夫（大阪大学）

演題：フォトニクス技術がもたらすミリ波・テラヘルツ波の応用と展開

2016年6月23日(水)／岐阜大学 サテライトキャンパス／出席者数：30名

5. 第9回マイクロ波英語発表会（主催）

年月日／会場：2016年7月2日 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス

発表件数：28件／参加者数63名（会員28名、非会員35名）

6. 講演会（主催）ワイヤレス給電の新しい波ワークショップ

演者／演題：森 一紘（戸田建設）／ワイヤレス給電システムの実用化に向けた異業種
コラボによる取り組み

演者／演題：高柳 毅（コーセル）／小電力防水アプリケーション用ワイヤレス給電回路
検討事例

演者／演題：鶴田 義範（ダイヘン）／ワイヤレス給電への取り組みと WPMc ホーム WG
活動内容紹介

演者／演題：嶋田 修平（JAXA）／宇宙機へのワイヤレス化適用検討

2016年11月5日／京都大学 宇治キャンパス

参加者数：56名（会員27名、非会員29名）

7. APMC2016 発表練習とアドバイスの会（共催）

2016年11月22日(火)13:00～／九州大学東京オフィス

8. IEEE AP-S/MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会 2016（主催）

2016年12月10日(土)／大阪電気通信大学 駅前キャンパス

II. 協賛

1. 電子情報通信学会 マイクロ波研究会

2016年1月～2016年12月の期間中に10回開催

2. テラヘルツ応用システム研究会
2016年2月5日 理化学研究所 (埼玉県)
3. 第10回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム
2016年10月13日 東北大学 雨宮/青葉山キャンパス
4. KIT メタマテリアルシンポジウム
2016年11月25日 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス
5. 2016 Microwave Workshops and Exhibition
2016年11月30日(水)~12月2日(金) パシフィコ 横浜
6. URSI-C 小委員会 第23期第8回公開研究会
テーマ: マイクロ波イメージング, センシング技術
2016年12月22日 (木) 核融合科学研究所 (岐阜県土岐市)

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. 役員会
2016年1月23日/龍谷大学 大阪梅田キャンパス 出席者数: 7名
2016年10月16日/龍谷大学ともいき荘 出席者数: 7名
2. 2016年 IEEE 関西支部総会
2016年2月2日/キャンパスプラザ京都 Chapterからの出席者1名
3. MTT'S Japan/Kansai/Nagoya Chapter 合同役員会
2016年3月16日/九州大学伊都キャンパス Chapterからの出席者数: 4名
2016年9月16日/産総研 つくば中央本部 Chapterからの出席者数: 3名
4. 2016 IEEE MTT'S Japan Young Engineer Award 審議会
2016年9月16日/産総研 つくば中央本部 Chapterからの出席者数: 3名

【2017年活動計画】

2017年も、策定したミッションに基づいた技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行うとともに、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催/協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。また、2017年および2018年に国内で開催予定の国際会議、ICMIM2017、APMC2018の開催準備を、Japan Chapter、Nagoya Chapterと協力して進める。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援も、引き続き両 Chapter と共同で行う。また、2014年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

【2016年活動報告】

Technical Meeting としては、1 月 28 日(木)に、神戸産業振興センターにおいて IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、松原孝宏氏(京セラ)から「光配線・実装技術の開発動向」、塚本雅裕先生(阪大)から「ものづくりの未来を拓くレーザー加工技術開発」という題目でご講演いただいた。参加者は 65 名であった。また、翌 29 日(金)も含む 2 日間にわたって同会場において開催された、電子情報通信学会 OPE, LQE, PN, MWP, EST 各研究会および電気学会 EMT 研究会との光関連合同研究会に協賛した。発表件数は計 87 件、のべ参加者は約 120 名とかなりの盛況であった。

7 月 6 日(水)には、トキメッセ(新潟)において開催された CLEO-PR/OECC-PS 2016 に協賛、優れた発表を行った 6 名の学生へ Best Student Presentation Award を授与した。

9 月 14 日(水)には、神戸メリケンパークオリエンタルホテルにおいて開催された International Semiconductor Laser Conference 2016 に協賛、優れた学生発表を行った Amin Abbashi 氏(ゲント大:ベルギー)へ Best Student Presentation Award を授与した。

10 月 8 日(土)には、京都工芸繊維大学において「第 2 回 IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。11 名の学生による英語での発表と企業研究者の招待講演 1 件があった。参加者は 20 名であった。予想以上に活発な議論があり、好評であった。

11 月 5 日(土)には、京都工芸繊維大学において「IEEE PS Kansai/KIT Symposium on Photonics」を主催、4 件の招待講演と 1 件の DL 講演があった。参加者は 40 名であった。

Administrative Meeting としては、1 月と 9 月に神戸、10 月と 11 月には京都工芸繊維大学で役員会を開催、年間活動方針、ワークショップ運営について協議した。

【2017 年活動計画】

2016 年も、技術講演会の開催を中心に活動を展開する。1 月 18 日には、例年通り電子情報通信学会の LQE/OPE/EMT/EST/MWP/PN/PEM 合同研究会と併催の形で、2 件の特別招待講演を主催するほか、年間を通じてもう 1~2 件の技術講演会やワークショップを企画する予定である。好評であった学生英語発表会も開催する予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

【2016 年活動報告】

2016 年は IEEE 内外との連携により、6 件の Technical Meeting を開催するとともに 3 件の論文賞および 4 件の学生賞の表彰を実施した。

具体的には、以下のとおりである。

1. 講演会(共催)
日程: 2016 年 01 月 19 日(火)
場所: 関西大学千里山キャンパス
講演者: Prof. Yo-Sung Ho (Gwangju Institute of Science and Technology (GIST), Korea)

- 講演題目: Eye Gaze Correction Using 3D Video Processing Techniques
出席者: 30 名
2. 講演会 (共催)
日程: 2016 年 01 月 21 日 (木)
場所: 同志社大学田辺キャンパス
講演者: Prof. Yo-Sung Ho (Gwangju Institute of Science and Technology (GIST), Korea)
講演題目: MPEG Activities for 3D Video Coding
出席者: 14 名
3. 電子情報通信学会 信号処理・応用音響・音声共催研究会 (共催)
日程: 2016 年 3 月 28 日 (月) ~ 29 日 (火)
場所: 別府国際コンベンションセンター
主催: 電子情報通信学会基礎境界ソサイエティ システムと
信号処理サブソサイエティ
発表件数: 71 件
出席者: 129 名
4. 講演会 (共催)
日程: 2016 年 7 月 26 日 (火)
場所: 関西大学千里山キャンパス
講演者: Prof. Hong-Yuan Mark Liao (Academia Sinica, Taiwan)
講演題目: Multimedia Signal Processing and Technology Transferred Applications
出席者: 50 名
5. Distinguished Lecturer 講演会 (共催)
日程: 2016 年 11 月 9 日 (水)
場所: 関西大学千里山キャンパス
講演者: Prof. Paris Smaragdis (University of Illinois at Urbana-Champaign, USA)
講演題目: Machine Listening: Making Computers that Understand Sound
出席者: 159 名
6. 講演会 (共催)
日程: 2016 年 12 月 12 日 (月)
場所: 関西大学千里山キャンパス
講演者: Prof. Woon-Seng Gan (Nanyang Technological University, Singapore)
講演題目: Recent Development in Multiple-Input Multiple-Output Active Noise Control System: Challenges and Solutions
出席者: 39 名

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award および IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award を実施し、受賞者各 2 名を 2016 年 11 月に表彰した。また、新たな賞として IEEE SPS Japan Best Paper Award を実施し、受賞者 3 名を 2016 年 11 月に表彰した。また、SPS 本部から活動内容を評価された結果、Chapter Certification を授与された。

【2017 年活動計画】

2017 年も講演会の開催を中心とする活動を展開し、会員の学識、および知見の向上を図る。昨年と同様、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で 1 件の論文賞および 2 件の学生賞の表彰を実施するとともに、学生が積極的に行事に参加するよう促し、新しい会員の獲得に努める。SPS は、対象が基礎から応用まで広範囲に及び、特に基礎部門については、異分野との交流により成果を挙げられる話題も少なくないことから、これまで以上に他の学会や研究会との積極的な連携を図り、共催、協賛での行事開催に取り組む。さらに、産業界を対象としたイベントやソーシャルネットワークを活用した広報活動についても検討していく。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

【2016 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 研究会(主催)

年月日/会場:2016 年 1 月 22 日/海峡メッセ下関 出席者数:17 名

内容:「コンシューマエレクトロニクス及び一般」をテーマとした研究会を開催した。発表件数は 11 件。山口大、名工大等からの発表があった。

2. 研究会(主催)

年月日/会場:2016 年 2 月 17 日/キャンパスプラザ京都 出席者数:10 名

内容:長谷教授 IEEE Fellow 昇格記念講演を中心とした研究会を開催した。発表件数は 2 件。記念講演の他に埼玉大からの発表があった。

3. シンポジウム(主催)「IoT 時代の観光・MICE 産業におけるオープンデータの活用」

年月日/会場:2016 年 9 月 1 日/大阪コングレコンベンションセンター 出席者数:100 名

内容:坂村健教授(東大)の基調講演とパネルディスカッション(パネリスト:今川拓郎氏(総務省情報流通行政局 情報流通振興課長), 滝澤豪氏(経済産業省商務情報政策局 情報処理振興課長), 田中由紀氏(観光庁 参事官), 溝畑宏氏((公財)大阪観光局 理事長))を行った。

4. IEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会(主催)

年月日/会場:2016 年 10 月 10 日/ベーコンラボ京都駅 出席者数:21 名

演者:Stefan Mozar 氏(IEEE Fellow, Past President of IEEE CE Society)

演題:The Revolution in Consumer Energy - The Effects of Mobility and Pseudo Green Technology -

5. 国際会議(主催) IEEE 5th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2016)

年月日/会場:2016 年 10 月 11 日~10 月 14 日/メルパルク京都 出席者数:350 名

内容:CE Society の Vice President・長谷教授が設立した国際会議。毎年 10 月に IEEE 主催の国際会議として日本で開催している。GCCE 2016 の運営主体は CE-08 West Japan Chapter で、主たる役割はその会員で行なった。Conference Chair は植村氏(龍谷大学)と川上氏(奈良先端科学技術大学院大学)。発表件数は 252 件(口頭発表:152 件、ポスター発表:88 件、デモ発表:12 件)。本チャプターから若手論文賞(3 件)の表彰を行った。

6. 国際会議(共催) 2016 TRON Symposium

年月日/会場:2016 年 12 月 14 日~12 月 15 日/東京ミッドタウン 出席者数:100 名
CE Society の共催(Technical Sponsor)により、国際会議 2016 TRON Symposium を開催した。12 月 14 日~16 日に同場所で開催の TRONSHOW 2016 の一環として開催。

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. CE Society BoG Mtg.

年月日/会場:2016 年 1 月 8 日/Las Vegas Convention Center, Las Vegas, US 出席者数: 30 名

CE Society 本部の 2015 年の活動が報告され、2016 年の活動計画を審議した。

2. CE Society Local Chair Mtg.

年月日/会場:2016 年 1 月 10 日/Las Vegas Convention Center, Las Vegas, US 出席者数: 20 名

当該チャプターの 2015 年の活動を報告し、2016 年の活動計画を審議した。

3. チャプター役員会

年月日/会場:2016 年 1 月 22 日/海峡メッセ下関 出席者数:3 名

本年の活動計画を確認する打合せを実施した。

4. チャプター役員会

年月日/会場:2016 年 2 月 17 日/キャンパスプラザ京都 出席者数:6 名

GCCE 2016 の進め方に関して打合せを実施した。

5. チャプター役員会

年月日/会場:2016 年 7 月 17 日/龍谷大学 出席者数:3 名

GCCE 2016 の準備状況を確認し、今後の進め方に関して打合せを実施した。

6. チャプター役員会

年月日/会場:2016 年 10 月 13 日/メルパルク京都 出席者数:3 名

本年の総括と来年の計画に関して打合せを実施した。

【2017 年活動計画】

2017 年 10 月 24~27 日に WINC AICHI(名古屋市)で国際会議 GCCE 2017 を開催する。GCCE 2017 では若手論文賞の表彰に加え、Young Profession イベントを通じて新規若手会員の獲得に努める。また、通常会員に対しては Senior Member Elevation Event を開催し、昇格を支援する予定である。また 12 月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2017 TRON Symposium

(CE Society の共催 (Technical Sponsor))を開催する。さらに 1 月 20 日に海峡メッセ下関において研究会を開催する(実施済)。

Chair の山口氏(山口大学)が Board of Governor(任期:2017-2019 年)に選ばれた。野中氏(湘南工科大学)(任期:2015-2017 年)と長谷氏(龍谷大学)(任期:2016-2018 年)とともに日本からは 3 人体制で活動を推進していく。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

【2016 年活動報告】

Technical Meetings

I. 共催行事

1. 講演会 (2016/5/19)

講演: Nonlinear control problems in human head rotation and binocular vision

講師: Bijoy K. Ghosh 教授 (Texas Tech University, USA)

2. 講演会 (2016/8/3)

講演: On the hierarchical risk-averse control problems for diffusion processes

講師: Getachew K. Befekadu 博士 (フロリダ大学)

II 協賛事業

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2016/1/18)

2. 計測自動制御学会 第 3 回制御部門マルチシンポジウム (2016/3/7-10)

3. ISCIE・SICE チュートリアル講座「飛行ロボット ～空の産業革命を支える技術～」 (2016/7/15)

4. The 48th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (2016/11/4,5)

5. 第 59 回自動制御連合講演会 (2016/11/10-12)

6. システム制御情報学会セミナー「データが拓く人工知能」 (2016/11/16)

Non-Technical Meetings

Chapter 役員会

1. 第 1 回役員会 (2016/3/8)

2. 第 2 回役員会 (2016/5/16)

3. 第 3 回役員会 (2016/10/24)

【2017 年活動計画】

2017 年は、主催・共催行事の開催を検討する他、例年通り下記の学会に協賛をする予定.

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2016/1/13)
2. 計測自動制御学会 第 4 回制御部門マルチシンポジウム (2016/3/6-9)
3. ISCIE・SICE チュートリアル講座
4. The 49th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications
5. 第 60 回自動制御連合講演会
6. システム制御情報学会セミナー

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

【2016 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会 (IEEE IES Japan Joint Chapter, IEEE IAS Japan Chapter, PELS Japan Chapter 主催)

講演者: 黒川不二雄 (長崎大学)

演 題: 「高性能化が進むデジタル制御スイッチング電源の最新技術動向」

年月日/会場: 2017 年 1 月 22 日 / 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス

出席者数: 86 名

2. 講演会 (主催)

講演者: Dr. Hassan Bevrani, Professor (University of Kurdistan, Iran)

演 題: 「New Findings in Microgrids Control」

年月日/会場: 2016 年 9 月 5 日 / 大阪大学 吹田キャンパス

出席者数: 20 名

3. 電気学会 半導体電力変換・モータドライブ技術合同研究会 (共催)

年月日/会場: 2017 年 9 月 22 日～23 日 / 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス

発表件数: 37 件

出席者数: 144 名 (2 日間のべ人数)

4. パワーエレクトロニクス学会定例研究会 第 212 回研究会 (共催)

年月日/会場: 2016 年 4 月 23 日 中央電気倶楽部

発表件数: 4 件

出席者数: 86 名

5. パワーエレクトロニクス学会定例研究会 第 213 回研究会 (共催)

年月日／会場：2016年6月11日 神戸大学 六甲台第2キャンパス
発表件数：5件
出席者数：60名

6. パワーエレクトロニクス学会定例研究会第214回研究会(共催)
年月日／会場：2016年8月6日 徳島大学 常三島キャンパス
発表件数：7件
出席者数：46名
7. パワーエレクトロニクス学会定例研究会第215回研究会(共催)
年月日／会場：2016年10月8日 (株)ジー・エス・ユアサ 京都本社
発表件数：6件
出席者数：82名
8. パワーエレクトロニクス学会定例研究会第216回研究会(共催)
年月日／会場：2016年12月3日 立命館大学 大阪・いばらきキャンパス
発表件数：45件
出席者数：165名

II. 協賛

1. 横浜スマートコミュニティ/福岡スマートハウスコンソーシアムセミナー「地域産業へ貢献する分散エネルギー」(主催：横浜スマートコミュニティ/福岡スマートハウスコンソーシアム)
年月日／会場：2016年1月28日 東京ビッグサイト 会議棟 7F 703 会議室
発表件数：14件
出席者数：90名
2. スマートエネルギーセミナー「国内外の再エネ導入事情 ～災害に強い街づくりソリューション～」(主催：福岡スマートハウスコンソーシアム, 横浜スマートコミュニティ, 大阪工業大学)
年月日／会場：2016年7月7日 グランフロント大阪 ナレッジキャピタルコングレ コンベンションセンター
発表件数：12件
出席者数：100名
3. パワーエレクトロニクス学会 第31回専門講習会「未来の電気自動車とそれを支えるパワーエレクトロニクス」(主催：パワーエレクトロニクス学会)
年月日／会場：2016年11月12日 学校法人常翔学園 大阪センター301,302 教室
発表件数：6件
出席者数：108名

Non-technical Meetings

1. 第1回役員会
年月日／会場：2016年2月27日／ 大阪ガーデンパレス
出席者数：6名(新旧役員)

2. 第2回役員会

年月日／会場:2016年4月23日／ 中央電気倶楽部

出席者数: 3名

3. 第3回役員会

年月日／会場:2016年12月3日／ 立命館大学 大阪・いばらきキャンパス(OIC)

出席者数: 3名

Chapter 支援費利用事業

1. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award(2016年4月23日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して2015年に開催された第207回から第210回までのパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から、35歳以下の若手によるもの1件の優秀な発表者に対してIEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し、副賞として図書カード1万円分を授与した。

主旨:(B)若手獲得・育成の企画、利用支援費1万円

内訳:副賞(1万円)／件×1件

2. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞 (2016年12月3日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して2016年12月3日に開催されたパワーエレクトロニクス学会第216回定例研究会で発表された論文の中から、35歳以下の若手によるもの2件の優秀な発表者に対してIEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞を授与し、副賞として図書カード1万円分を授与した。

主旨:(B)若手獲得・育成の企画、利用支援費2万円

内訳:副賞(1万円)／件×2件

【2017年活動計画】

2017年は、1月27日にIEEE IES Japan Joint Chapter, IEEE IAS Japan Chapter, PEELS Japan Chapter 合同主催で、講演会(講演者: 大山和伸 氏, ダイキン工業)の開催を予定している。また、パワーエレクトロニクス学会と共催で、4月、6月、8月、10月、12月に定例研究会の開催が予定されている。

また、例年通り以下の表彰を行う計画である。

1. 2017 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12月の研究会は対象から除外する)の満35歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文1件の発表者に対してIEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与する。

2. 2017 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞
IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して12月に開催されるパワーエレクトロニクス
学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で30件程度の発表会が行わ
れている。その中の優秀発表2件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics
Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞を授与する。

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

【2016年活動報告】

1. 4月23日に、第2回の関西四国磁性研究会を愛媛大学において主催し、4件の口頭発表と5
件のポスター発表が行われ、最優秀ポスター発表を表彰した。参加者19名による活発な討論
が実施され、研究会後に懇親会が行われた。
2. 8月4,5日に同志社大学で開催された、IEEE Metro Area Workshop in Kansai において
チャプターの活動についてのポスター発表を行った。
3. 11月10,11日に、金沢商工会議所において、第7回国際磁気力制御フォーラム(The 7th
International Forum on Magnetic Force Control)を共催した。これは、大阪大学工学研
究科 が主催(西嶋茂宏教授が Chairman)したものである。10件の口頭発表が行われ、参加
者27名による活発な討論が実施された。
4. 12月5日に大阪市ナレッジサロンにて役員会を開催し、役員交代に伴う引継ぎと、次年の行事
について審議決定した。
5. 12月8日に、愛媛大学において、電子情報通信学会 MR/ITE-MMS 合同研究会を共催
した。10件の口頭発表が行われ、参加者72名による活発な討論が実施された。

【2017年活動計画】

2017年は、関西・四国圏の磁性関連研究者を対象に技術講演会の開催や、学生・若手研究者
を主たる対象とした研究会を開催するなど、技術情報の提供や会員獲得に向けた活動を実施す
る。

具体的には、第3回の関西四国磁性研究会を4月に四国地区において、基調講演と学生のポス
ター発表会をメインとした研究会を主催する予定である。この研究会は当チャプターの主催で定
例会とする予定である。これ以外の、研究会の主催も企画する。また、他学協会の研究会などを
共催・協賛するほか、Distinguished Lecturerを招いてのDL Meetingを開催する予定である。
併せて会員への情報提供のため、HPの開設、充実を図る。

V. 関西支部会員数

1. 会員数推移状況(12月末)

表 1. 年ごとの会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Total
2008	0	29	50	7	99	43	1,499	99	190	115	2,131
2009	0	33	50	6	94	45	1,536	105	216	129	2,214
2010	0	36	50	7	102	45	1,561	89	204	162	2,256
2011	0	40	48	9	110	50	1,559	105	233	159	2,313
2012	0	44	38	11	118	59	1,587	82	317	78	2,334
2013	1	45	35	14	113	64	1,604	62	288	129	2,355
2014	1	46	31	20	116	69	1,594	60	271	99	2,307
2015	1	45	34	18	127	75	1,556	55	255	93	2,259
2016	1	48	30	23	126	82	1,547	61	258	82	2,258

Grade code H: Honorary member,
 LF: Life Fellow, F: Fellow,
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,
 LM: Life Member, M: Member,
 AM: Associate Member,
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

表 2. 年ごとの会員数と内訳(集約版)

Year	Higher Grade	Members	Students	Total
2008	185	1,831	115	2,131
2009	183	1,902	129	2,214
2010	195	1,899	162	2,256
2011	207	1,947	159	2,313
2012	211	2,045	78	2,334
2013	208	2,018	129	2,355
2014	214	1,994	99	2,307
2015	225	1,941	93	2,259
2016	228	1,948	82	2,258

Grade code Higher Grade:H, LF, F, LS, SM
 Members:LM, M, AM, GSM
 Students: StM

(グレーの枠は前年より人数の減少があるカテゴリ)

○月ごとの会員数の推移

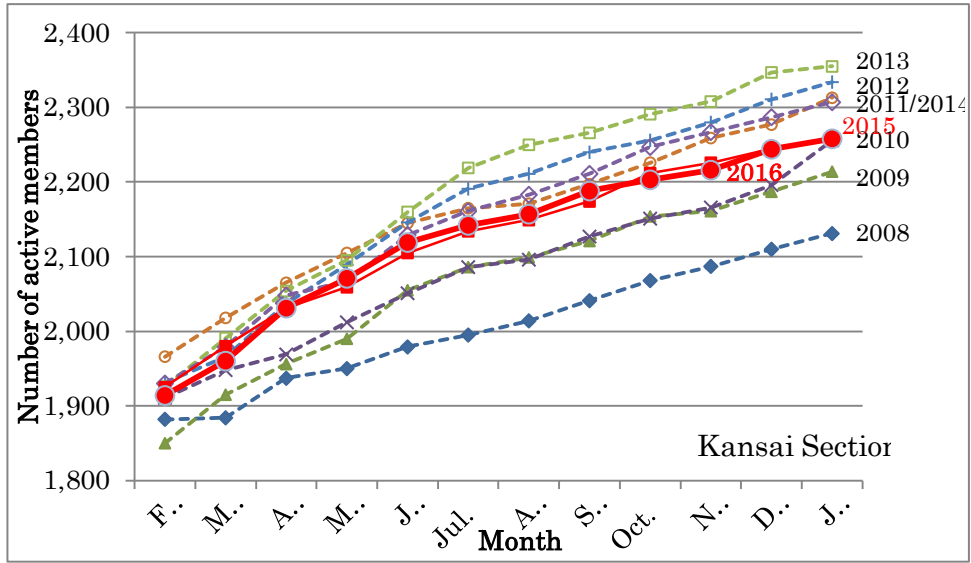


図 1. 会員数の月別推移

○会員区分の推移

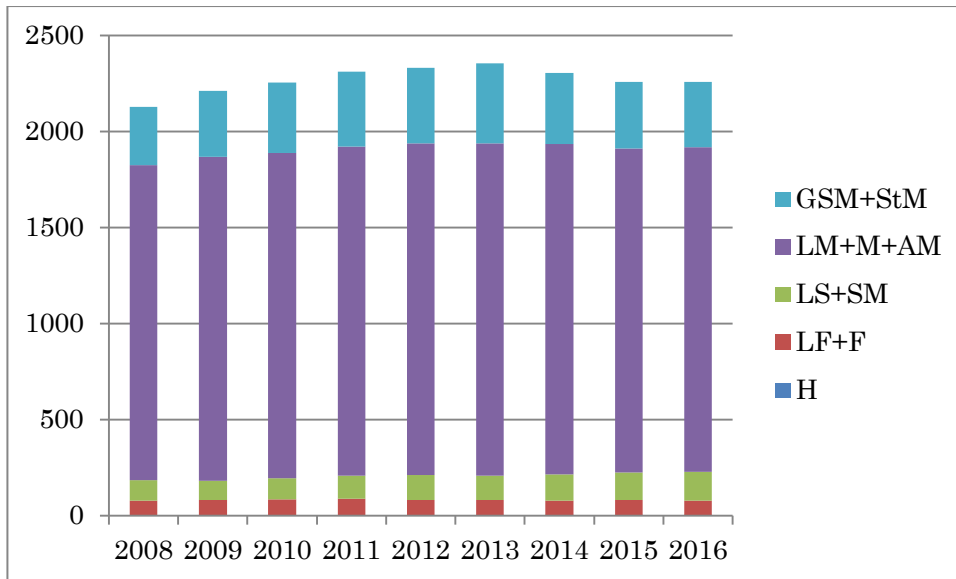


図 3. 会員区分の推移

14. ソサイエティ別会員数

[2016年 11月11日更新]

◎ 幹事Chapter

Society Code	Society Chapter Name	Established Year	関西支部 メンバー数	Chapter構成	◎ 幹事Chapter									
					札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡	
SP-01	Signal Processing Society Tokyo Joint Chapter	1982		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	○	
	Signal Processing Society Sendai Chapter	2013		仙台単独		◎								
	Signal Processing Society Kansai Chapter	2007	147	関西単独						◎				
BT-02	Tokyo/Japan Sections Broadcast Technology Society Joint Chapter	1983	4	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
AP-03	Antennas and Propagation Society Tokyo Chapter	1971~1972		東京Joint	○	○	○	◎					○	
	Antennas and Propagation Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					◎					
	Antennas and Propagation Society Kansai Joint Chapter	2006	60	関西Joint						◎	○	○		
	Antennas and Propagation Society Fukuoka Chapter	2005		福岡単独									◎	
CAS-04	Circuits and Systems Society Japan Joint Chapter	1971~1972		東京Joint	○	○	○	◎	○				○	
	Circuits and Systems Society Kansai Chapter	2002	122	関西単独						◎				
	Circuits and Systems Society Shikoku Chapter	2006		四国単独								◎		
	Circuits and Systems Society Fukuoka Chapter	2001		福岡単独									◎	
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	1981	25	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
VT-06	Vehicular Technology Society Tokyo Chapter	1979	43	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
R-07	Reliability Society Japan Joint Chapter	1983	9	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
CE-08	Consumer Electronics Society East Joint Japan Chapter	1983		東京Joint	○	○	○	◎						
	Consumer Electronics Society West Japan Joint Chapter	2008	30	関西Joint						◎	○	○	○	
IM-09	Instrumentation and Measurement Tokyo/Japan Sections Joint Chapter	1973	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	1991	14	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	2004	91	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	1981	42	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter	1981	60	関西Joint	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○	
TM-14	Technology and Engineering Management Society Japan Chapter	1997	17	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	1971~1972		東京Joint	○	○	○	◎				○	○	
	Electron Devices Society Kansai Chapter	2000	185	関西単独						◎				
C-16	Computer Society Japan Chapter	1967		東京Joint	○	○	○	◎	○			○	○	
	Computer Society Kansai Chapter	2006	387	関西単独						◎				
	Computer Society Fukuoka Chapter	2004		福岡単独									◎	
MTT-17	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	1958		東京Joint	○	○	○	◎				○	○	
	Microwave Theory and Techniques Society Nagoya Chapter	2010		名古屋単独					◎					
	Microwave Theory and Techniques Society Kansai Chapter	2006	137	関西単独						◎				
EMB-18	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	1970	162	東京Joint	○	○	○	◎	○	○				
	West Japan Chapter of Engineering in Medicine and Biology	2007		福岡Joint								○	◎	
COM-19	Communications Society Japan Chapter	1973		東京Joint	○		○	◎	○				○	
	Communications Society Sendai Section Chapter	2012		仙台単独		◎								
	Communications Society Kansai Chapter	2006	191	関西単独						◎				
UFFC-20	Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control All Japan Joint Chapter	1986	53	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
CPMT-21	Components, Packaging and Manufacturing Technology Society Japan Chapter	1994	30	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	1996	10	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
CS-23	Control Systems Society Japan Chapter	1981		東京Joint	○	○	○	◎				○	○	
	Control Systems Society Kansai Chapter	2011	87	関西単独						◎				
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Joint Chapter	1990	160	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
E-25	Education Society Japan Chapter	1981	17	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
PC-26	Professional Communication Society Japan Chapter	2006	17	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Joint Chapter	1980	21	東京Joint	○		○	◎	○	○	○	○	○	
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	2001		仙台単独		◎								
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	1974	99	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○		○	
	Systems, Man, and Cybernetics Society Hiroshima Chapter	2005		広島単独									◎	
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society All Japan Joint Chapter	1982	14	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
SIT-30	Society on Social Implications of Technology Japan Chapter	1983	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
PE-31	Power & Energy Society Japan Joint Chapter	1964	51	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
DEI-32	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	1986	15	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
MAG-33	Magnetics Society Tokyo Chapter	1977		東京Joint				◎					○	
	Magnetics Society Shin-etsu Chapter	2015		信越単独				◎						
	Magnetics Society Sendai/Sapporo Joint Chapter	2005		仙台Joint	○	◎								
	Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter	2015	37	関西Joint						◎	○			
	Magnetics Society of Japan Nagoya Chapter	2008		名古屋単独						◎				
IA-34	Industry Applications Society Japan Chapter	1973	49	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
PEL-35	Power Electronics Society Japan Joint Chapter	1990	65	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
	Power Electronics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									◎	
PHO-36	Photonics Society Japan Chapter	1986		東京Joint	○	○	○	◎	○			○	○	
	Photonics Society Kansai Chapter	2007	82	関西単独						◎				
	Photonics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									◎	
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	1998		東京Joint	○	○	○	◎	○			○	○	
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	2001	120	関西単独						◎				
ITS-38	Intelligent Transportation Systems Society Tokyo Chapter	2014		東京単独				◎						
	Intelligent Transportation Systems Society Nagoya Chapter	2013		名古屋単独					◎					
CEDA-44	Council on Electronic Design Automation All Japan Joint Chapter	2014	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	

関西支部主幹でなく、関西支部メンバー数が50名以上のChapter

「◎」幹事 Section(活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

VI.2016年 会計報告

収入の部	予算@116円/\$	実績値	予算比	(単位: JPY)
◆IEEE Entity 間勘定	3,657,428	2,260,487	61.8%	MAWの経費支出抑圧により支援額減少。 為替による影響を除き、おおむね計画通り。
Section Rebate	1,639,730	1,586,265	96.7%	2015/12末会員数を元に計算: \$7233.5
▲Chapter Rebate 支払い	▲366,560	▲365,032	99.6%	Chapter Rebate \$2860(含むBonus)
▲Affinity Group Rebate 支払い	▲76,560	▲72,786	95.1%	AG Rebate \$660(含むBonus)
SB Rebate	112,752	111,947	99.3%	7校分
▲SB Rebate 支払い	▲112,752	▲111,947	99.3%	
Section Rebate 小計	1,196,610	1,148,447	96.0%	
Section Assessment	4,398,991	3,969,916	90.2%	\$36914.29(前期) + \$894.44(後期)
▲Japan Council 拠出金	▲3,604,173	▲3,329,698	92.4%	18%は支部に還元。為替変動により減少。
Section Assessment 小計	794,818	640,218	80.5%	
MAW 支援費	1,500,000	322,401	21.5%	当初経費300万円を200万円弱と大幅に圧縮。 協賛企業などからの支援も得ることにより、実費用を圧縮。 赤字額: 644,802円の半額支援 (MGA)
LMAG 支援費	43,200	38,745	89.7%	2015年分が2016年に入金
WIE 支援費	92,800	110,676	119.3%	\$1000 USD (MGA)、 \$250 USD (R10)は未入金
YP 支援費	30,000	0	0.0%	
◆Japan Council からの支援	1,519,128	469,128	30.9%	MAWの経費支出抑圧により支援額減少。 Assessmentの18%還元での対応を行い、 大幅減額。
Section 支援費 (MAW)	750,000	0	0.0%	1/4 支援 (総額 3,000,000 JPY) → 18%還元で対応。
Section 支援費 (YP Award メダル)	11,628	11,628	100.0%	1名 (メダル、2015年度申請分)
Section 支援費 (学生研究奨励賞)	180,000	180,000	100.0%	9名 (賞状、副賞、2015年度申請分)
Section 支援費 (関西支部メダル)	177,500	177,500	100.0%	20個 (2015年度申請分)
Section 支援費 (WIE)	100,000	100,000	100.0%	WIE Symposium, WIE/YP Joint Workshop
Section 支援費 (YP)	50,000	0	0.0%	YP Workshop → 18%還元で対応。
Section 支援費 (Student Branch)	200,000	0	0.0%	English Presentation Competition, SB 交流会 → 18%還元で対応。
Section 支援費 (Milestone 経費)	50,000	0	0.0%	蹴上 Milestone → 18%還元で対応。
◆その他	0	121,159	-	
雑収入	0	115,522	-	R10 AGM(Annual General Meeting) 交通費。立 て替え払い分
利息	0	5,637	-	
小計	5,176,556	2,850,774	55.1%	
◆2015年からの繰越金	2,901,696	2,901,696	100.0%	
合計	8,078,252	5,752,470	71.2%	

支出の部	予算@116円/\$	実績値	予算比	(単位: JPY)
◆会合・Award・活動費	4,059,028	2,236,051	55.1%	MAWの経費支出抑圧により支援額減少。 活性化/活動強化予算は、翌年一部繰越予定。
関西支部活性化費	1,000,000	444,884	44.5%	会員増強対策 (R10 Congress の学生 1名分をサポート予定。約15万円) R10 AGM 旅費立替え
Chapter 活動強化費	500,000	0	0.0%	会員メリット強化対策
MAW 支援費	750,000	645,342	86.0%	含むMGA支援322,401円。MGA報告後の送金手数料540円も含む。
総会会合費	400,000	310,534	77.6%	資料作成費, 懇親会費等
▲懇親会費徴収	▲200,000	▲185,000	92.5%	総会懇親会 (@5,000 JPY x 40名想定が37名に減少)
総会費 小計	200,000	125,534	62.8%	
講演会費	50,000	30,000	60.0%	5名
理事会費	300,000	151,210	50.4%	会場費, 飲食費 (6回)
Committee 会合費	250,000	85,513	34.2%	各種 Workshop (2回), SAC 等
YP Award 費	11,628	0	0.0%	1名 (メダル、2017年支払)
学生研究奨励費	180,000	188,400	104.7%	15名 (賞状, 副賞)
関西支部メダル費	225,000	0	0.0%	購入見送り
LMAG 支援費	69,600	37,622	54.1%	技術講演会開催および準備費用
WIE 支援費	192,800	218,485	113.3%	WIE Symposium, WIE/YP Joint Workshop
YP 支援費	80,000	58,084	72.6%	YP Workshop, MDC/YP/SAC Workshop
Student Branch 支援費	200,000	236,320	118.2%	English Presentation Competition, SB 交流会
Milestone 経費	50,000	258	0.5%	蹴上 Milestone
Milestone Plaque 費立替分	700,000	635,264	90.8%	5個
▲Milestone Plaque 費立替返金分	▲700,000	▲620,865	88.7%	5個 (為替レート変動により差異発生)
Milestone Plaque 費 小計	0	14,399	-	
◆事務経費	542,000	14,639	2.7%	関西支部Webページ移行せず。
関西支部 Web ページ移行費	500,000	0	0.0%	関西支部 Web ページ移行費用。 メリット不明につき、本年は移行せず。
外部監査費	0	0	-	外部監査不要
事務用品費	2,000	1,803	90.2%	ファイル等
旅費	20,000	0	0.0%	理事交通費
通信費	20,000	12,836	64.2%	郵送費, 宅配便等
◆雑費	525,000	527,069	100.4%	
為替手数料, 振込手数料等	25,000	27,069	108.3%	
MAW 一時立替払い	0	0	-	MGA/JC 支援費分立替え 支援振り込みで相殺済み
Histelcon 2017 準備会合費 一時立替払い	500,000	500,000	100.0%	2017年に返還予定
小計	5,126,028	2,777,759	54.2%	
◆2017年への繰越金	2,952,224	2,974,711	100.8%	
合計	8,078,252	5,752,470	71.2%	

VII. 2017年 予算(案)

収入の部

想定レート：102円/\$、単位：円

◆IEEE Entity 間勘定	1,572,765	
・ Section Rebate (IEEE 本部より)	1,457,468	2016/12末想定会員数を元に計算：\$14288.9 Chapter Rebate \$3310、及びAG Rebate \$220x3 (LMAG,WIE,YP)、ボーナスを含む
▲Chapter Rebate支払	▲ 337,620	$(\$200 \times 13 + \$75 \times 6) \times 1.1 = \3310
▲Affinity Group Rebate支払	▲ 67,320	$(\$200 \times 3 + \$75 \times 0) \times 1.1 = \660
・ SB Rebate	96,492	2016年実績\$946より計算
▲SB Rebate支払	▲ 96,492	
・ Section Rebate小計	1,052,528	
・ Section Assessment 2017前後期	3,786,368	2016/12末会員数を元に想定：\$25 x 1704 x 92%(更新率) x 95%(手数料減額) = \$37121.25
▲Japan Council 拠出金 + 手数料	▲ 3,407,731	Assesment入金*90% (10%はSectionに還元)
・ Section Assessment小計	378,637	10%還元分
・ LMAG 支援費	30,000	
・ WIE 支援費	81,600	\$300 (IEEE WIE), \$500 (IEEE R10 WIE)
・ YP 支援費	30,000	
◆Japan Councilからの支援	0	Japan CouncilからのSection支援は特別な場合を除き、行わないことが2016年第3回JC理事会で決定
・ Section 支援金 (総会メダル代、研究奨励)	0	YP賞メダル(3個分)、 関西支部メダル(10個)、 学生研究奨励賞 (10名)
・ Section 支援金 (WIE)	0	WIE Symposium, WIE/YP joint WS
・ Section 支援金 (YP)	0	YP WS
・ Section 支援金 (Student Branch 支援費)	0	English Presentation大会、SB交流会
◆その他の収入	500,000	
・ Histelconからの貸付金返済	500,000	2016年貸し付け分返済。
小計	2,072,765	
◆2016年からの繰越金	2,974,711	
合計	5,047,476	

JCの予算策定レート102円/\$として計算

Rebate内訳 { \$2000 + \$4 x (Fellow, Senior会員数=227) + \$3 x (Member, Associate, Student会員数=2030)

+ \$1.5 x (Affiliate会員数=134) + \$200 x (Chapter数=13) + \$200 x (Affinity group数=3) } x 1.1

+ \$300(Chapter Bonus:\$75x6) + \$200(Section Bonus)

※会員数は、2016年12月31日の確定値

支出の部

想定レート：102円/\$、単位：円

◆会合・AWARD・活動費	2,626,000	
・関西支部活性化費	300,000	会員増強対策費
・Chapter活動強化費	400,000	Chapter支援（最大3万円×13） 会員メリット強化対策費
・総会開催費	400,000	資料代、懇親会費など
▲懇親会費徴収	▲ 200,000	総会懇親会(5,000 円×40 名想定)
・講演会	50,000	TPCの講演者への謝礼：5 名分
・理事会費	300,000	会場代、飲食代 5回
・Committee 会合費	250,000	各種WS、2 回、SAC等
・総会メダル、研究奨励賞	326,000	YP賞メダル(3個分)、 関西支部メダル(10個)、 学生研究奨励賞（10名）
・Student Branch 支援費	200,000	English Presentation大会、SB交流会
・LMAG 支援費	120,000	技術講演会開催費および準備費用、LMAGサロン
・WIE 支援費	200,000	WIE Symposium, WIE/YP joint WS
・YP 支援費	80,000	YP WS
・R10 Meeting事務局派遣支援	50,000	Secretary旅費支援
・Section Congress支援	150,000	Section Congress2017参加にかかわる費用
◆事務経費	42,000	
・関西支部ページ移行費用	0	関西支部ページ移行費用 (状況を見て必要性を判断)
・外部監査費	0	外部監査不要
・事務用品費	2,000	ファイル等
・旅費	20,000	各種旅費支援
・通信費	20,000	郵送費、宅配便等
◆雑費	25,000	
・為替手数料, 振込手数料、他	25,000	
小計	2,693,000	
◆2018 年への繰越	2,354,476	
合計	5,047,476	

VIII. 受賞者

IEEE 関西支部 Young Professionals 賞受賞者 (1名)

大下 裕一 大阪大学

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者 (11名)

Matthew James Holland 奈良先端科学技術大学院大学

Parinya Punpongsanon 大阪大学

池田 卓矢 京都大学

大歳 達也 大阪大学

小熊 優太 京都大学

権平 皓 京都大学

篠原 篤志 大阪府立大学

高田 瑤子 大阪府立大学

速水 祐作 関西大学

増田 豊 大阪大学

吉永 幹 京都大学

IEEE 関西支部 メダル受賞者 (新 Senior member) (11名)

Ali Kashif Bashir 大阪大学

Onur Alpharlan (大阪大学)

Julian Webber (ATR 波動工学研究所)

Marc Delcroix (NTT)

糸崎 秀夫 (大阪大学)

岩出 秀平 大阪工業大学

大久保 雅章 大阪府立大学

加藤 利次 同志社大学

瀬尾 和之 LG Innotek

東坂 範雄 三菱電機

細田 耕 大阪大学

IEEE 関西支部 新 Fellow (1名)

河原 達也 京都大学

(各アルファベット順、敬称略)

IX. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.
(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section 3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section 4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,
representatives of Chapters,
representatives of Affinity Groups,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section

Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

2017 年 IEEE 関西支部連絡先
〒661-8661 兵庫県尼崎市塚口本町 8-1-1
三菱電機株式会社
先端技術総合研究所 内
IEEE 関西支部事務局
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>